

# 第4章 事業実現に向けて





# 1

## 推進体制

### 事業推進に向けた連携体制

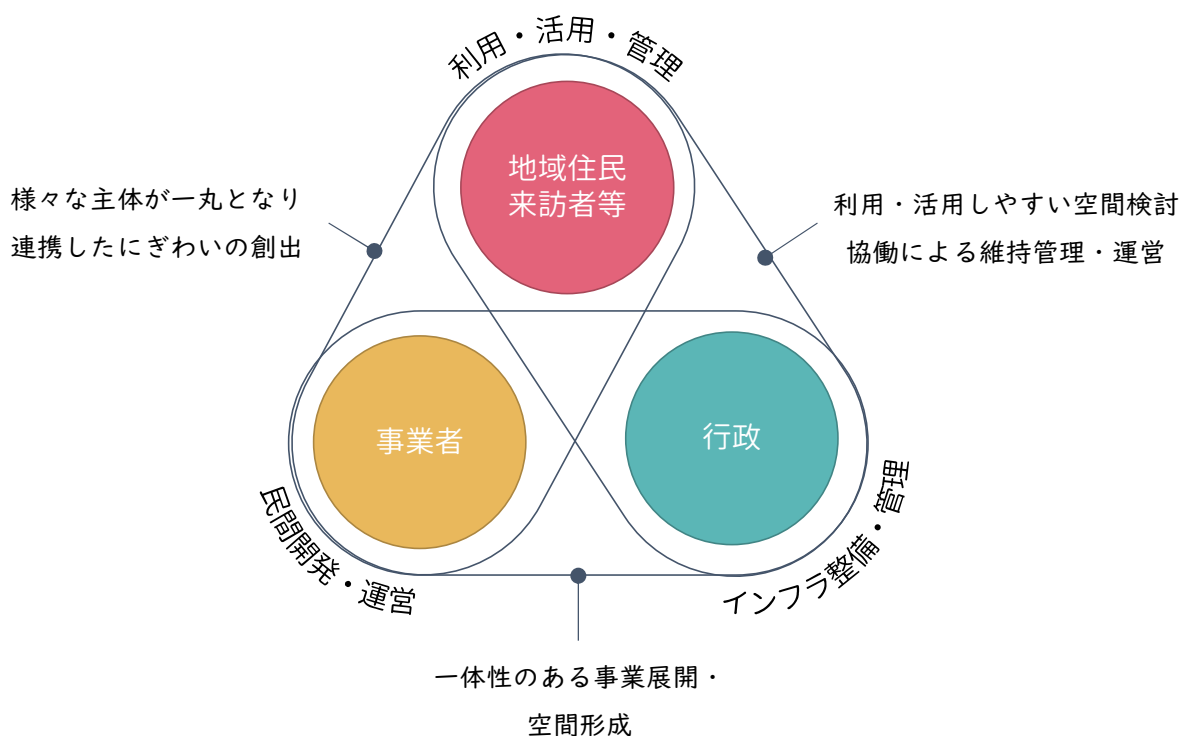


本計画の実現に向けては、駅前広場や道路の整備等のハード事業による基盤づくりを行政主体で行った上で、地域住民や来訪者、事業者、NPO等が主体的、持続的に活用していける事業として進めていくことが重要です。

今後の個別事業の具体化にあたっては、社会実験<sup>※</sup>等を行いながら整備後の活用イメージを地域住民等の利用者と共有し、より良い事業を目指し検討を進めます。

また、開発用地の整備にあたっては、事業者へのサウンディング調査<sup>※</sup>等を行いながら、その事業性に配慮するとともに、公民連携による事業実施に向けた体制づくりを図ります。

### 連携体制のイメージ



# 2

## 事業スケジュール

### 事業推進スケジュールと進捗管理



#### 【事業推進スケジュール】

本計画のうち、暮らしやすさにぎわい創出に向けた核となる駅前広場整備と、それに付随した開発用地における事業について短期・中期的に進めます。道路事業については、駅前街区事業と連携して整備することが望ましい道路を優先的に具体化、事業化を図り、徐々にその他の道路へと事業展開を図っていきます。狭あい道路については、重点課題地区を中心として地域の皆さまのご理解とご協力を得ながら改善に努めます。

#### 事業推進スケジュール

		短期 (概ね 5 年)			中期 (概ね 10 年)		長期 (概ね 20 年)		
駅前街区	駅前広場整備	関係機関協議・実施設計			整備				
	開発用地事業	事業手法の検討・調査 地元・地権者協議			整備				
道路	朝日通りと中山道をつぶ 新たな幹線軸の整備	地元調整・警察協議 設計			交差点改良		経過観察 延伸改良検討		
	駅西通り 美化化・滞留空間の形成	事業化検討		関係者調整 設計		整備		制度運用	
	三交通り 道路占用制度等の活用	事業化検討		制度運用					
	銀座通り 歩車共存に向けた改良	事業化検討			関係者・関係機関調整 設計		整備		
	中山道の無電柱化の促進	関係者・関係機関調整							
	大型商業施設の周辺に幹 線軸間をつぶ道路の新設・ 拡幅	事業化検討		関係者・関係機関調整、設計				整備	
	重点課題地区を中心とし た狭あい道路の解消	事業化検討			合意形成、整備・改良				

※関係機関との調整等により、スケジュールが変更となる場合があります。

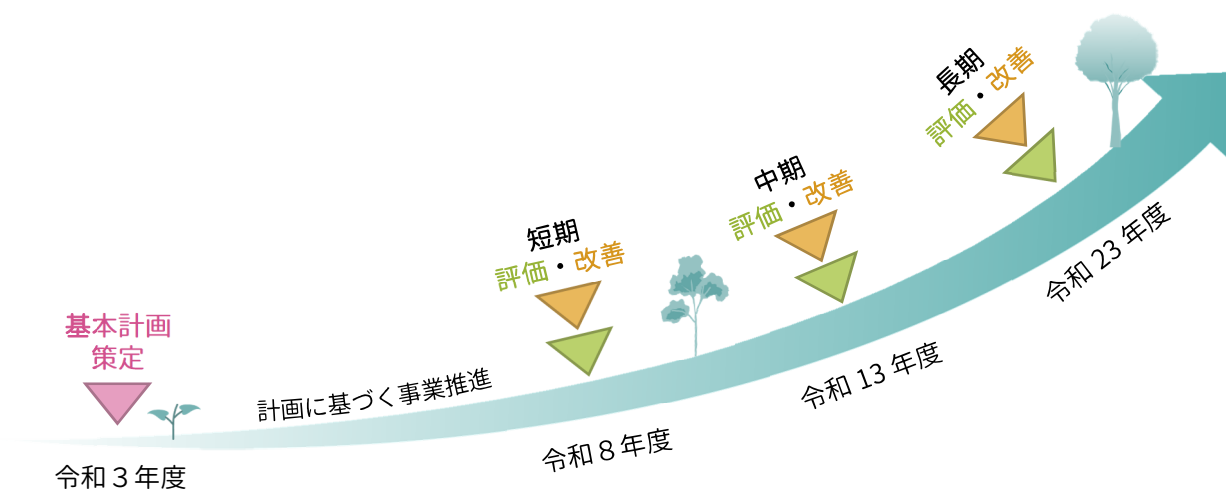
## 【進捗管理】

本計画の推進にあたっては、PDCA サイクルによる事業進捗の確認と評価を行い、適宜、社会情勢の変化や周辺土地利用の状況等を考慮した改善・見直しを行います。

### PDCA サイクルによる進捗管理のイメージ



### 進捗管理の時期



# 3


## SDGs

### SDGs への対応



2015年9月に国連サミットで採択された持続可能な開発目標（SDGs：Sustainable Development Goals<sup>※</sup>）のうち、本計画における以下の項目に寄与する取組みの積極的な推進を図っていきます。

開発目標	ターゲットと本計画における取組み
 <p>3 すべての人に健康と福祉を</p>	<p>あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を推進する</p> <p><b>3.6：世界の道路交通事故による死傷者を半減させる。</b></p> <p>⇒駅前広場整備における歩行者と車両動線の錯そう解消</p> <p>⇒道路整備における歩車共存に向けた道路空間の再配分、通学路としての安全性確保</p>
 <p>4 質の高い教育をみんなに</p>	<p>すべての人々に包摂的かつ公平で質の高い教育を提供し、生涯学習の機会を促進する</p> <p><b>4.a：子供、障害及びジェンダーに配慮した教育施設を構築・改良し、全ての人々に安全で非暴力的、包摂的、効果的な学習環境を提供できるようにする。</b></p> <p>⇒開発用地における子育て世代や若者の利用を想定した機能への配慮</p>
 <p>7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに</p>	<p>すべての人々に手ごろで信頼でき、持続可能かつ近代的なエネルギーへのアクセスを確保する</p> <p><b>7.1：安価かつ信頼できる現代的エネルギーサービスへの普遍的アクセスを確保する。</b></p> <p>⇒開発用地における事業での、積極的な省エネルギー対策の推進</p>
 <p>8 働きがいも経済成長も</p>	<p>すべての人のための持続的、包摂的かつ持続可能な経済成長、生産的な完全雇用およびディーセント・ワーク（働きがいのある人間らしい仕事）を推進する</p> <p><b>8.3：生産活動や適切な雇用創出、起業、創造性及びイノベーションを支援する開発重視型の政策を促進するとともに、金融サービスへのアクセス改善などを通じて中小零細企業の設立や成長を奨励する</b></p> <p>⇒開発用地における民間開発の誘導、雇用機会の創出</p>

開発目標	ターゲットと本計画における取組み
	<p style="background-color: #4a7ebb; color: white; padding: 5px; text-align: center;"><b>都市と人間の居住地を包摂的、安全、強靱かつ持続可能にする</b></p> <p><b>11.2</b>：脆弱な立場にある人々、女性、子供、障害者及び高齢者のニーズに特に配慮し、公共交通機関の拡大などを通じた交通の安全性改善により、全ての人々に、安全かつ安価で容易に利用できる、持続可能な輸送システムへのアクセスを提供する。 ⇒駅前広場整備による安全な公共交通機関の利用環境の形成</p> <p><b>11.3</b>：包摂的かつ持続可能な都市化を促進し、全ての国々の参加型、包摂的かつ持続可能な人間居住計画・管理の能力を強化する。 ⇒狭あい道路の解消による住宅更新、土地の流動化を促進</p> <p><b>11.7</b>：女性、子供、高齢者及び障害者を含め、人々に安全で包摂的かつ利用が容易な緑地や公共スペースへの普遍的アクセスを提供する。 ⇒駅前広場や道路沿道における公共スペース、滞留空間の創出</p> <p><b>11.b</b>：包含、資源効率、気候変動の緩和と適応、災害に対する強靱さ（レジリエンス）を目指す総合的政策及び計画を導入・実施した都市及び人間居住地の件数を大幅に増加させ、仙台防災枠組 2015-2030 に沿って、あらゆるレベルでの総合的な災害リスク管理の策定と実施を行う。 ⇒狭あい道路の解消による緊急時の避難や緊急車両の走行に配慮した道路環境への改善</p>



## SDGsとは？

持続可能な開発目標（SDGs：Sustainable Development Goals）とは、2015年9月の国連サミットで加盟国の全会一致で採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」に記載された、2030年までに持続可能でよりよい世界を目指す国際目標です。

17のゴール・169のターゲットから構成され、地球上の「誰一人取り残さない」ことを誓っています。SDGsは発展途上国のみならず、先進国自身が取り組む普遍的なものであり、日本としても積極的に取り組んでいます。

### SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

世界を変えるための17の目標



